

Dayanita Singh, Museum Bhavan

〈リトル・レディーズ・ミュージアム—1961年から現在まで〉 2013年 ©Dayanita Singh

総合開館20周年記念

ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館

2017年5月20日|土|—7月17日|月・祝|
Saturday, 20 May — Monday, 17 July, 2017

開館時間: 10:00-18:00 (木・金は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで
休館日: 毎週月曜日(ただし7/17[月・祝]は開館)

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社

協賛: 東京都写真美術館支援会員/ **TOPPAN** / **HISEIDO** 協力: **ANA**

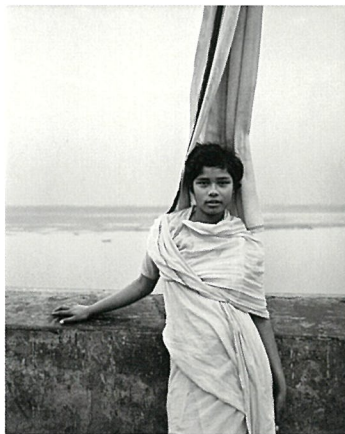
観覧料: 一般800(640)円、学生700(560)円、中高生・65歳以上600(480)円 * ()は20名以上の団体料金
*小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害をお持ちの方とその介護者は無料 *第3水曜日は65歳以上無料

TOP MUSEUM

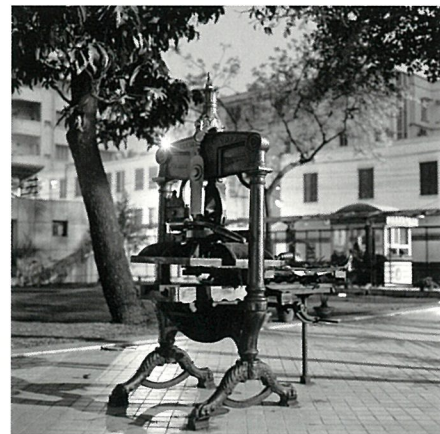
Dayanita Singh, Museum Bhavan



《マイセルフ・モナ・アハメド》1989-2001年、21点組より、東京都写真美術館蔵



《私としての私》1999年、12点組より、京都国立近代美術館蔵



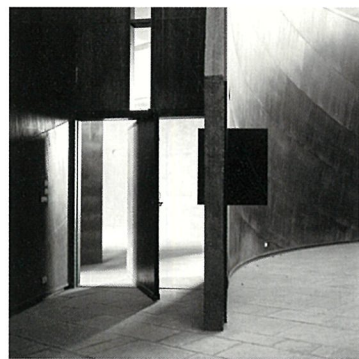
《ミュージアム・オブ・チャンス》2013年より



《ファイル・ミュージアム》2012年より



ノニー・シン(リトル・レディーズ・ミュージアム—1961年から現在まで)2013年より



《ミュージアム・オブ・シェディング》2016年より

今、世界で最も活躍の著しい写真家のひとり、ダヤニータ・シン。東京都写真美術館は総合開館20周年記念展として彼女の展覧会を開催いたします。

欧米雑誌のカメラマンとしてキャリアを開始したダヤニータ・シンですが、徐々に外国人が望むエキゾチックで混沌とした貧しいインドのステレオタイプなイメージに疑問を持ち、1990年代後半にフォトジャーナリストとしての仕事を完全に辞め、アーティストとしての活動を開始します。

ダヤニータ・シンの作品は視覚的な小説とも呼べるような、ドキュメンタリーとフィクション、夢と現実、不在と実在が緋い交ぜになったユニークな世界を展開しています。近年は移動式の「美術館」を考案し、全体を〈インドの大きな家の美術館(Museum Bhavan)〉と名付けました。詩的で美しい世界のなかに、現代写真・美術が抱える美術館システムやマーケット等の問題、現代社会におけるセクシュアリティや、格差、階級、ジェンダー、アーカイブ、情報等の様々な問題が示唆されています。また、従来の写真や写真集という概念を軽々と超えて、写真というメディアの新たな可能性を切り開いています。彼女の作品は今後の写真のあり方を考える上でも示唆に富むものです。

本展覧会は、ダヤニータ・シンの初期の代表作《マイセルフ・モナ・アハメド》(1989-2001年)、《第3の性(ポートフォリオ)》(1991-93年)、《私としての私》(1999年)から、転機となった《セント・ア・レター》(2007年)を導入部に、最新作を含むダヤニータ・シンの「美術館」を日本初公開いたします。

日本の美術館では初の個展となるダヤニータ・シンの世界をご堪能ください。

関連事業

■講演会

ダヤニータ・シン

作家が自らの作品について語ります。

日時:5月20日(土) 18:00-19:30

会場:東京都写真美術館 1階ホール

定員:190名(整理番号順入場/自由席)

入場料:無料/要入場整理券

*当日10:00より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

■講演会

島山直哉

同時代を疾走する写真家・島山直哉が

朋友ダヤニータ・シンの作品について語ります。

日時:7月7日(金) 18:00-19:30

会場:東京都写真美術館 1階ホール

定員:190名(整理番号順入場/自由席)

入場料:無料/要入場整理券

*当日10:00より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

■展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より、

担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、

2階展示室入口にお集まりください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

作家プロフィール

1961年インド・ニューデリー生まれ。アーメダバードの国立デザイン大学卒業後、1987年から88年までニューヨークの国際写真センター(ICP)で学び、欧米雑誌のカメラマンとして活動する。初期の作品に、インドを代表するタブラ奏者を大学在学中から長期取材した『ザキール・フセイン』(1987年)、ユナック(去勢された男性)のモナ・アハメドとの13年の交流による『マイセルフ・モナ・アハメド』(2001年)がある。その後自身が属するインドの富裕層やミドル・クラスへとテーマを転じ、1997年にチューリヒのスカロ・ギャラリーで家族写真の初個展を開催し、2003年に写真集『プライベート』を発表する。以後、『ゴー・アウェー・クロウザー』(2007年)、『セント・ア・レター』(2007年)、『ドリーム・ヴィラ』(2010年)、『ハウス・オブ・ラブ』(2010年)、『ファイル・ルーム』(2013年)、『ミュージアム・オブ・チャンス』(2014年)など、写真のメディアとしての可能性に挑戦する作品を多数発表している。2013年のロンドンのヘイワード美術館の個展『ゴー・アウェー・クロウザー』展はフランクフルト現代美術館やモスクワのマルチメディア美術館に巡回し、シカゴ美術館(2014年)、イタリア・ポローニャのMAST美術館(2016-17年)、インド・ムンバイのBhau Dali Lad Museum(2016-17年)でも個展が開催され、マニフェスタ7(2008年)、ヴェネチア・ビエンナーレ(2011年、2013年)やシドニー・ビエンナーレ(2016年)などの数々の国際現代美術フェスティバルや国際展に招聘されている。



- JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
- 当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
 Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
 Tel: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

東京都写真美術館
 TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM